

単元名 日本の歴史 町人の文化と新しい学問

1 学年

- 小 中
 1 1
 2 2
 3 3
 4
 5
 ⑥

背景

本単元では、江戸時代に歌舞伎や人形浄瑠璃が町人に親しまれたり、浮世絵が人気になるなど、社会が安定するにつれてそれまでの時代と違って町人が担い手の文化が栄えたことを理解する。また、新たな学問がおこり、次の時代にも影響を与えるということを学習する。

歴史の学習では、内容を身近に感じることが難しい。そこで、今も残る印旛沼を扱うことによって、歴史をより身近に感じることができると考える。

印旛沼は、現在、上水道、工業用水及び農業用水の水源となっている。また、それだけでなく水産業、レジャーなどの観光業など多方向に渡って利用されている。江戸期にさかのぼってみると、水運としても活用されている。さらに江戸時代では、江戸幕府の老中の田沼意次や水野忠邦によって、治水や水運、新田開発のための掘削工事も行われている。

そこで、江戸時代の学習を終えた段階で、今の私たちに受け継がれているのは文化や学問だけでなく、先人たちの取り組みによって、現在の生活そのものが支えられているということを理解させる。印旛沼の歴史を学ぶことにより身近な印旛沼との関わり方についても考えをもてるようになることを考える。そうすることで、自分も地域の一員として、印旛沼をさらに大切にしていけるか考えることができるか考えられるようになり、郷土に対する愛着が深められると考える。

2 教科・領域

- 国語 生活
 ⑥ 社会 家庭
 算数 図工
 数学 道德
 理科 総合

ねらい

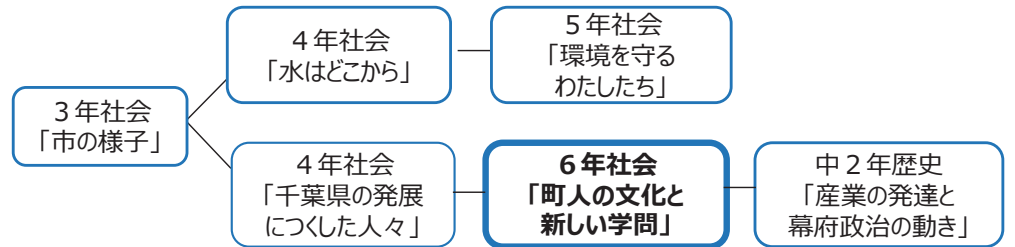
○歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学を手掛かりに、町人の文化が栄え新しい学問がおこったことを理解すること。

○世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

3 見方や考え方

- 多様性
 関連性
 空間的広がり
 ⑥ 時間的変化

系統



4 資質・能力

- ⑥ 知識・技能
 思考力
 判断力
 表現力
 ⑥ 主態度

資料・準備・関連機関等

資料

- ・「いんばぬま情報広場」印旛沼流域水循環健全化会議、<http://inba-numa.com/>
- ・「印旛沼流域情報マップー歴史・文化編ー」印旛土木事務所、2013
- ・「印旛沼のはなし」公益財団法人印旛沼環境基金、2014
- ・「印旛沼開発の歴史」、「印旛沼の農業」関東農政局、<https://www.maff.go.jp/kanto/index.html>
- ・「酒々井町の街道と道しるべ」、酒々井町教育委員会生涯学習課 https://www.town.shisui.chiba.jp/static/chunk0001/road_and_guidepost/
- ・「シンキングツール～考えることを教たい～」黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕、NPO法人学習創造フォーラム、2012

指導計画

5 指導時間

- ・準備 1時間
 ・授業時間 1時間

時配	学習内容
1～5	年間指導計画に準じて展開。
6(本時)	江戸時代から現在までの印旛沼の歴史や水源の用途を知り、郷土愛を深める。

本時でねらう見方や考え方

印旛沼の歴史や水源の用途を知ることで、印旛沼や地域に対する関心を高め、私たちの生活と深い関わりがあることを理解する。

また、過去・現在における印旛沼と人の関わりが、「未来に向けてどのように変わっていくのか」というイメージをもつ。

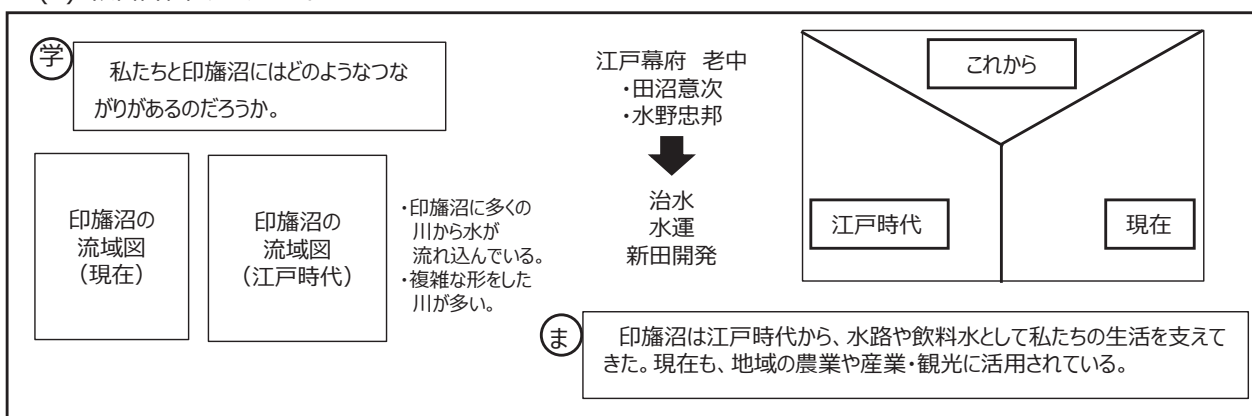
本時の指導 6 / 6

- (1) 目標
- 昔から印旛沼を活用して生活や文化を発展させてきたことを理解できる。(知識・技能)
 - 印旛沼の歴史を知り、今後、印旛沼と私たちがどのように関わっていけばよいのかについて、自分の思いを表現しようとする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開

学習過程	時配	学習活動と主な発問(◎)	指導や支援(・)評価(☆)	資料
見出す	3	1 これまでの学習内容について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代には多くの町人文化や新しい学問がおこったことを理解する。 4年で学習した掘削工事のことも確認する。 	既習の掲示物 印旛沼流域図(現在・江戸時代)
	3	2 本時の学習課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 昔は今と違い、舟運という手段がいかに重要であったかを知らせる。 印旛沼の現在の地図と江戸時代の地図を比較して、違いを見つける。 	
私たちが印旛沼にはどのようなつながりがあるのだろうか。				
調べる	15	<p>3 各グループで資料を読み取り、印旛沼が江戸時代どのように利用されてきたかを調べ、Yチャートにまとめる。</p> <p>◎形が違う印旛沼はどのように生活とつながっていたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物を運ぶ 人を運ぶ 飲み水 作物を育てる <p>◎なぜ掘削工事を行ったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 利根川東遷の影響により、洪水が多く起きるようになった。 複雑な形だから船が進みやすくするために工事を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> グループで資料とワークシート、付箋紙を用いて活動する。 地形から、私たちが住んでいるところと江戸がつながっていたことを理解させる。 印旛沼の掘削工事を行った、江戸幕府の老中田沼意次と水野忠邦について知る。 印旛沼につながる利根川の流れが変化したことを捉えられるようにする。 掘削工事を行う目的として「治水」「水運」「新田開発」の目的があったことを理解する。 ☆昔から印旛沼を活用して生活や文化を発展させてきたことを理解する。(知・技) 	ワークシート(Yチャートの図) 印旛沼流域情報マップ 治水・利水編-資料の表付箋紙
深める	12	4 各グループで調べたことを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の暮らしにおいて、印旛沼が必要で大切であったことを理解できるようにする。 	
	10	<p>5 印旛沼と私たちが現在どのようなつながりがあるかを考え、先人たちから受け継いだ印旛沼とこれからどのようにかわっていくことができるかを考えYチャートにまとめる。</p> <p>◎私たちは現在印旛沼とどのように関わりがあり、これから印旛沼とどのように関わっていけるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私たちでできる活動を考える。 ☆印旛沼の歴史を知り、今後、印旛沼と私たちがどのように関わっていけばよいのかについて、自分の思いを表現しようとしている。(主態度) 	
まとめあげる	2	6 本時の学習のまとめをする。		
印旛沼は江戸時代から、水路や飲料水として私たちの生活を支えてきた。現在も、地域の農業や産業・観光に活用されている。				

(3) 板書計画・ワークシート



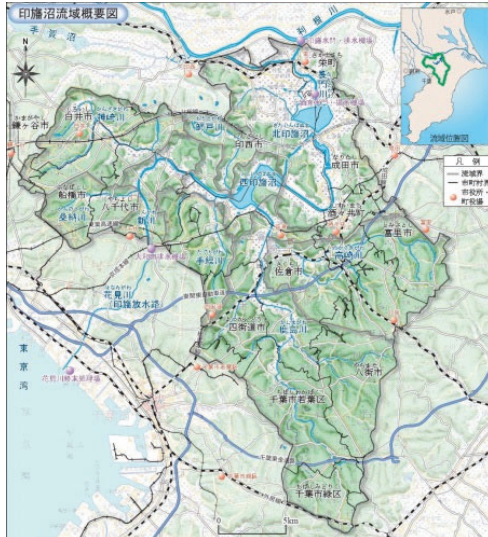
資料等

(1) 資料及び使い方

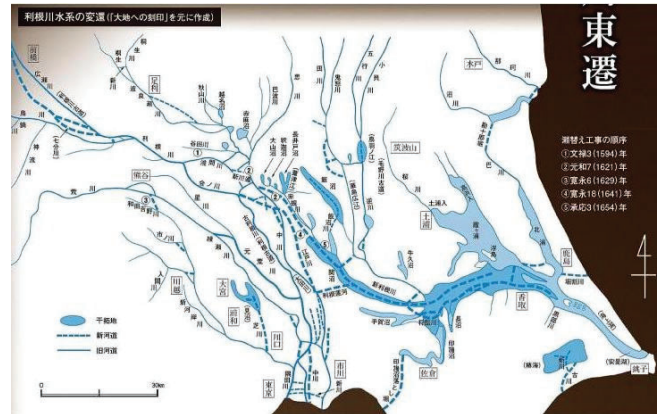
○既習の掲示物

⇒教科書の内容に準じて、江戸時代におこった町人の文化や新しい学問についてまとめる。

○印旛沼流域図（現在・江戸時代）



(いんばぬま情報広場)



(関東農政局)

○資料の表（資料に掲載の本も活用する。）

印旛沼地域の農業は水稲生産が主体となっており、印旛沼地域関係6市町の水稲生産量（約4万9千トン）は、千葉県における水稲生産量（約337千トン）の15%を占めています。

市町名	水稲生産量
成田市	18,100トン
佐倉市	7,430トン
八千代市	1,930トン
印西市	14,300トン
酒々井町	1,300トン
栄町	6,410トン
関係6市町	49,470トン
千葉県全体	337,400トン

(平成25年度農林水産省作況調査結果より)

(関東農政局)

○思考ツール「Yチャート」の使い方

⇒①「昔」、「現在」、「これから」という区分を確認し、各区分に書く。

②調べてわかったことをワークシートに箇条書きしていく。

③考えたことを発表し、共有する。

④各区分の特徴を書き、まとめる資料とする。

(2) 授業のポイント

「3 各グループで資料を読み取り、印旛沼が昔どのように利用されてきたかを調べ、Yチャートにまとめる。」

⇒印旛沼が人々にどのように使われていたかに注目して考えさせ、『印旛沼流域情報マップ－治水・利水編－』の17～28ページを資料として、「物を運ぶ」「飲み水」「作物を育てる」という3つの観点にまとめさせ、生活をする上で大切な存在であったこととおさえる。また、一方で生活を守るためには大規模な掘削工事が必要であったことも理解させる。

(3) 留意点

資料の表より、印旛沼の水は、昔も今も印旛沼周辺の地域だけではなく、県内の広い地域で活用されていることとおさえる。また、飲用水だけではなく、多様な用途に用いられていることもおさえておく。

そうすることで、印旛沼の水が時代を超え、様々な用途で広範囲に渡る多くの人の生活を支えていることを理解できるようにさせる。

(4) 発展または別案

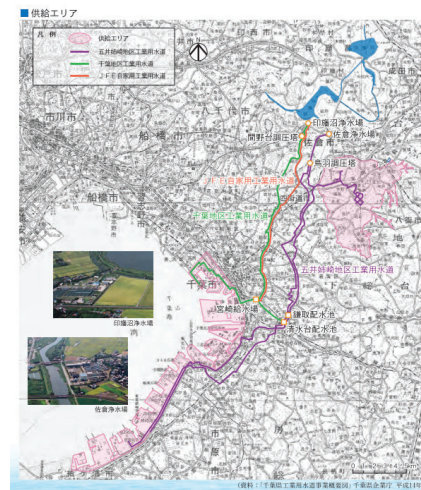
地域よっての農業生産額を提示するのもよいと考える。また、5年生の校外学習などでJFEスチールなどに行く場合は、印旛沼の水を利用しているので、より身近に感じられる。さらに、農業や産業に特化すると5年時の学習としても取り扱うことができると考えられる。

■印旛沼からの利水量

種 別	名 称 (浄水場)	利 水 量 (m ³ /秒)
①生活用水	千葉県水道局 (柏井浄水場)	2.07※
②工業用水	JFEスチール (印旛沼浄水場)	1.80☆
	五井姉崎地区 (佐倉浄水場)	5.00☆
	千葉地区 (印旛沼浄水場)	1.51※
③農業用水	印旛沼周辺農地	19.12☆
合 計		29.50

※は利根川河口堰などで開発した水を沼を経由して取水するもの (資料：千葉県企業庁管理・工業用水部工業用水課、総合企画部水政課)
☆は沼からの取水

② 工業用水
工業用水は、東京湾臨海の五井姉崎地区に5.00m³/秒、千葉地区に1.51m³/秒およびJFEスチール専用として1.80m³/秒が、それぞれに導水され、千葉県の工業の発展に寄与している。



(印旛沼流域情報マップ－治水・利水編－)